

「無縁社会」を考える

～地域で支えあう新たなしくみの構築へ～

今年1月31日に放送されたNHKスペシャル「無縁社会～無縁死3万2千人の衝撃～」は、人や社会とつながらず、孤立する人々が増加した現代社会を“無縁社会”と位置づけ、大きな反響を呼びました。

去る8月4日に行われた兵庫県社会福祉協議会による「第49回社会福祉夏季大学」では、無縁社会の実態と地域福祉のあり方をテーマに、番組を制作したNHKのディレクターを迎えシンポジウムを開催したところ、全国から600人もの参加があり、福祉関係者のこの問題に対する関心の高さを証明しました。

今号では、今の日本に広がる新たな不安「無縁社会」について考えます。



**年間3万2千人の
無縁死が起きている！**

今、全国各地で孤独死が増えています。

これは、世界に類をみないスピードで高齢化していく日本の今の現状を写したものです。

全国1,783の自治体へNHKが調査したところ、引き取り手のない死亡者が、年間に約3万2千人に及ぶという事実が判明しました。しかし、この数字は氷山の一角で、自治体経費でなく個人資産で埋葬される場合は含まれていません。

番組では、こうした「無縁死」を追う中で、人や社会とのつながりがない、もしくはつながりが機能しない「無縁社会」が広がっている現在の日本の現実を伝えました。

△番組で紹介された事例▽

自宅（東京）で亡くなった50代の男性は、死後の引き取りがなく大学病院に検体として送られた。役所が親族を探したところ、富山で男性の兄と叔父が見つかったが、引き

取られることはなかった。

この男性の場合、父親が過労で倒れたことをきっかけに家族がばらばらになり、家族、親戚とは10年以上連絡を取らず疎遠になっていた。

**なぜ、無縁社会が
広がるのか**

無縁社会が広がる原因として考えられるのは、「地縁」、「血縁」、職場との縁である「社縁」という従来からの人と人のつながりが薄くなってきたことです。中でも特に、家族のきずなの崩壊が大きな原因と思われます。

ここ10年以上経済状況が停滞していることや、核家族化、世帯の縮小化が進んでいることで、家族同士が支えきれなくなっています。

しかし、生涯未婚者（51歳の時点で独身の人）が、20年後には女性で4人に1人、男性では3人に1人になることが推計される中、さらに家族や地域から孤立する人が増え、「無縁社会」が広がることが予想されます。